

## タイルメンテナンスについて

タイルや施工場所に付着する汚れは、使用する場所や汚れの状況によってメンテナンス方法が異なります。磁器質タイルのため吸水性は低いですが、汚れが付着したままの状態では長時間放置すると、除去することが困難になります。日常的なメンテナンス、定期的なメンテナンスを正しく行ってください。

### ご使用前の注意事項

- ・磨き仕上げは、内部で使用、水濡れする床にご使用の場合、表面が滑りやすいため出入り口などに使用する際には、足拭き用マットを置くなどの滑り防止対策をしてください。
- ・磨きタイルは、表面がキズ付きやすいです。
- ・ISO、JIS規格に基づいて製造していますが、製造上、ねじれや反り、表面の反射による揺らぎ（磨き仕上げ）などが生じる場合があります。

### メンテナンス時の注意事項

- ・色落ちの原因となりますので、酸性・アルカリ性の洗剤は使用をひかえてください。
- ・化学薬品が含まれるモップは、タイルの表面を傷める場合がありますのでご注意ください。
- ・磨きタイルの場合、メラミンフォームで強く擦ると表面がキズ付き汚れやすくなりますので、ご注意ください。
- ・強粘着の養生テープやシール、ガムテープなどをタイルの表面に長時間張付けたままにすると、変色の原因になりますのでご注意ください。
- ・目地に汚れがついた場合、歯ブラシなどで軽く擦り、汚れを落としてください。
- ・洗浄後は汚染水が残らないよう、きれいに拭き取ってください。

### 日常のメンテナンス方法

床面の一般的な清掃は、モップやデッキブラシ、掃除機などで清掃を行ってください。部分的に汚れている場合は、水拭き、中性洗剤などで洗浄して汚れを除去してください。

#### 内壁

日常のメンテナンスは乾いたウエスやモップを使い、乾拭き掃除を行ってください。手垢などが目立つ場合は、固く絞った雑巾で拭き取ってください。

#### 内床

表面に艶、光沢がある商品は、酸性、アルカリ性の洗剤を使用すると色落ちの原因になる可能性があります。油汚れやアルコール類は表面に残ると除去しにくくなりますので、早めに除去してください。色が白や黒の場合、泥汚れやヒールマークなど汚れが目立ちやすくなります。ご選定の際は、ご注意ください。

#### 外壁

一般的な砂や泥汚れなどは、固く絞ったタオル、またはブラシで洗浄してください。しつこい汚れの場合は、高圧洗浄機を使用し汚れを除去してください。

#### 外床

表面が凹凸な仕上げやグリップ仕上げの場合、泥汚れや油汚れが付くやすくなりますので選定の際は、予め施工箇所の状況に応じた検討を十分にしてください。しつこい汚れの場合、市販の中性洗剤、弱酸性洗剤を使用しデッキブラシ、ポリッシャーで除去してください。清掃後は汚水をきれいに除去し、良く拭き取ってください。色が単色の白や黒の場合、泥汚れやヒールマークなど汚れが目立ちます。

#### カウンター天板

キッチンのカウンターの場合には、油汚れや調味料の汚れはなるべく早く拭き取ってください。長時間放置すると汚れが落ちにくくなります。落ちにくい油汚れの場合、中性洗剤を使用して落としてください。日常的にウエスで乾拭きもしくは固く絞った雑巾で拭き掃除をして汚れを落とすようにメンテナンスしてください。しつこい油汚れの場合は、スチームクリーナーを使用し除去してください。

#### 注意点

薬品を使用してメンテナンスを行う場合、強い酸性やアルカリ性洗剤、塩素系のカビ取り洗剤はタイルの表面を変色させてしまう可能性があるためご使用は避けてください。

## 磨きタイルメンテナンス

磨きタイルは、その美しい光沢と高級感から、多くの場所で使用されていますが、適切なメンテナンスを行うことで、その美しさを長く保つことができます。

### ■ 日常のメンテナンス

日常的な清掃は、掃除機や乾いたモップで埃や砂を取り除くことから始めます。特に磨きタイルは、砂埃がのったまま雑巾がけをすると、細かいキズがつくことがあるため、注意が必要です。軽い汚れは、水で濡らして固く絞った雑巾やモップで拭き取ります。

### 中性洗剤の使用

水拭きで落ちない汚れには、薄めた中性洗剤を使用します。洗剤が残らないように、最後に水拭きでしっかりと拭き取ります。洗剤を使用する際は、タイル表面をキズつけないために、柔らかい布やスポンジを使用します。

施工後、磨き・光沢タイルの表面に静電気です埃が付着する場合があります。使用していくうちに放電され付着しにくくなりますが、症状がひどい場合、メンテナンス業者にご相談ください。

### ⚠ 注意点

#### 研磨剤の使用を避ける

磨きタイルは表面が研磨されているため、研磨剤入りの洗剤やクレンザーを使用すると、光沢が失われる可能性があります。メラミンスポンジは、表面の保護剤を落としてしまう可能性があるため、使用を避けてください。

#### 酸性・アルカリ性洗剤に注意

強酸性や強アルカリ性の洗剤は、タイルを傷める原因になります。使用する際は、必ず中性洗剤を選びましょう。

#### 水分の拭き取り

水分が残ったまま放置すると、水垢やシミの原因になります。拭き取りは丁寧に行ってください。

#### 油汚れへの対策

油汚れは、中性洗剤を薄めたものを含ませた布で拭き取ります。汚れがひどい場合は、重曹ペーストを塗布してしばらく置いてから拭き取ると効果的です。

## 各種汚れのメンテナンス方法

### コーヒー、ワイン、油汚れの場合

長時間放置するとシミになり除去しにくくなりますので、汚れたら早めに拭き取ってください。市販の洗剤を使用する場合は、製品の使用方法や注意事項にしたがって、ご使用ください。

### 砂、泥汚れの場合

雑巾やほうき、モップ、掃除機で除去してください。

### 靴跡(ゴム跡)の場合

固く絞った雑巾やブラシで除去してください。汚れが落ちにくい場合は、中性洗剤を使用してください。

### ガム汚れの場合

しつこいガム汚れはスクレイパーを使用し、表面にキズがつかないように注意して除去してください。時間の経過とともに除去しにくくなりますので、早めに除去してください。

### ■ 特別なメンテナンス

#### 専門業者への依頼

落としきれない汚れやキズがある場合は、専門の業者に依頼することでも検討しましょう。

### ■ 予防策

#### 玄関マットの設置

玄関など、砂や埃が入りやすい場所には、玄関マットを設置して、汚れの侵入を防ぎましょう。

#### 保護シートの使用

家具などを置く場所には、保護シートを敷いて、タイルのキズ付きを防ぎましょう。

これらのメンテナンス方法を参考に、磨きタイルを美しく保ちましょう。

## マット仕上げタイルメンテナンス

マットタイルは、落ち着いた質感と滑りにくさから、住宅や商業施設など幅広い場所で使用されています。美しい状態を保つためには、日頃のメンテナンスが重要です。

### ■ 日常のメンテナンス

#### 掃除機での清掃

日常的なメンテナンスとして、掃除機で埃や砂を取り除くことが大切です。特に、マットタイルは表面に凹凸があるため、埃が溜まりやすいので丁寧にいきましょう。

#### 水拭き

軽い汚れは、水で濡らして固く絞った雑巾やモップで拭き取ります。汚れがひどい場合は、中性洗剤を薄めたものを使用し、最後に水拭きで洗剤をしっかりと拭き取ります。

### ■ 汚れの種類別メンテナンス

#### 油污れ

中性洗剤を薄めたものを含ませた布で拭き取ります。汚れがひどい場合は、重曹ペーストを塗布してしばらく置いてから拭き取ると効果的です。

#### 水垢・カビ

水まわりのマットタイルは、水垢やカビが発生しやすいので注意が必要です。水垢には、クエン酸水をスプレーしてしばらく置いてから拭き取ります。カビには、塩素系漂白剤を薄めたものをスプレーしてしばらく置いてから洗い流します。この際、換気を十分に行い、ゴム手袋などを着用してください。

#### 頑固な汚れ

市販のタイル用洗剤を使用するのも有効です。使用する際は、製品の取扱い説明書を良く読んでから使用してください。

### ⚠ メンテナンスの注意点

#### 研磨剤の使用を避ける

マットタイルは表面が研磨されていないため、研磨剤入りの洗剤やクレンザーを使用すると、キズがつく可能性があります。

#### 酸性・アルカリ性洗剤に注意

強酸性や強アルカリ性の洗剤は、タイルを傷める原因になります。使用する際は、必ず中性洗剤を選びましょう。

#### 水分の拭き取り

水分が残ったまま放置すると、水垢やカビの原因になります。拭き取りは丁寧にいきましょう。

#### 洗剤の残留に注意

洗剤を使用した場合は、洗剤成分が残らないようにしっかりと水拭きしてください。

#### メラミンスポンジ

メラミンスポンジは、表面の保護剤を落としてしまう可能性があるため、使用を避けてください。

### ■ 予防策

#### 玄関マットの設置

玄関など、砂や埃が入りやすい場所には、玄関マットを設置して、汚れの侵入を防ぎましょう。

#### 換気

水まわりでは、換気を十分に行い、カビの発生を防ぎましょう。

これらのメンテナンス方法を参考に、マットタイルを美しく保ちましょう。

## グリップタイルメンテナンス

グリップタイルは、滑り止め効果を高めるために表面に凹凸加工が施されており、主に屋外や水まわりなどで使用されます。その特性上、汚れが溜まりやすいという側面もあるため、適切なメンテナンスが重要です。

### ■ 日常のメンテナンス

#### 掃き掃除

日常的には、ほうきやデッキブラシなどで砂や埃を取り除きます。

#### 水洗い

定期的な水で洗い流し、表面の汚れを落とします。汚れがひどい場合は、ブラシでこすり洗いをします。

### ■ 汚れの種類別メンテナンス

#### 泥汚れ

水で洗い流し、ブラシでこすり洗いをします。

#### 油污れ

中性洗剤を薄めたものを使い、ブラシでこすり洗いをします。洗剤が残らないように、しっかりと水で洗い流します。

#### コケ・カビ

市販のカビ取り剤を使用します。使用する際は、製品の取扱い説明書を良く読んでから使用し、換気を十分に行ってください。高圧洗浄機を使用するのも有効ですが、タイルの種類によってはキズつける可能性があるため、注意が必要です。

### ⚠ メンテナンスの注意点

#### 洗剤の選定

酸性やアルカリ性の強い洗剤は、タイルを傷める可能性があるため、中性洗剤を使用します。一部ラスターなど特殊な釉薬を使用している製品、表面に凹凸のある製品、吸水のある製品などに酸・アルカリの洗剤を使用されますと変質・変色の原因となります。

#### ブラシの選定

硬すぎるブラシは、タイル表面をキズつける可能性があるため、柔らかめのブラシを使用します。

#### 高圧洗浄機

高圧洗浄機を使用する場合は、水圧を調整し、タイル表面をキズつけないように注意します。

#### 安全対策

洗剤を使用する際は、ゴム手袋や保護メガネを着用し、換気を十分に行ってください。

### ■ 予防策

#### 定期的な清掃

汚れがひどくなる前に、定期的に清掃を行うことで、汚れが落ちやすくなります。

#### 排水対策

水が溜まりやすい場所は、排水対策を行い、コケやカビの発生を防ぎます。

グリップタイルは、適切なメンテナンスを行うことで、美観と滑り止め効果を長く保つことができます。